石櫻新聞

発行所
盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者 荒川義弘
印刷所
河北印刷株式会社

文化祭
特集号

岩高・岩中文化祭

華々しく開催

……錦冷の候となり、毎日朝晩の寒さが身にこたえるようになって冬は……間近なようである。

……さて二学期の二大行事の一つ、文化祭がきょうから二日間盛大に開……かれることになった。

……この文化祭をただ単なる無意味な祭に終らせるか、それとも高校……時体の良き思い出の一ページとするかは在校生諸君の心構一つによ……ろう。

恒例の岩高岩中文化祭はきょうから二日間華々しく本校において開幕されることになった。

演劇、音楽等の講堂における催しものを始めとして物理、化学、生物、書道、写真、郷土研究、都便友の会、絵画、図書、JRC、山岳、音楽、地学、映画、社会科研究クラブ、体育委員会、生活委員会、出版委員会の十九会場に分れて催されるわけであるが、各会場ではいろいろな趣をこらして多彩な文化の華を咲かせている。

各部は日頃沈滞といわれる文化活動を、バンカイせんものと張り切っている。

何いとっても今年は規模も大きくなり、文化祭を盛り上げようとする力が強いことを見逃すことはできない。

多い写真による展示

また今年の特徴でもあろうが、昨年の表による説明と比べて写真による説明が多いこともまた文化祭を盛り上げようとする力が強いことを裏づけるものである。

これと同時に文化祭を単なるお祭り騒ぎではなく、学生生活の思い出の一ページにしようとする考えの表われが感じられる。

また昨年同様、アンケートによる統計の展示が多いこと事も見逃すわけにはいかない。

図書委員会の県内学校図書館紹介を始めとして出版委員会のテレビによる新聞への影響、等、ほとんどの会場でアンケートによる統計の展示をしているようである。しかもこれは校内で調べたものは少なく、ほとんど他校へ依頼したものである。

新説　高瀬舟

脚本は岩手高校演劇部員の考案によるもの。

この新説高瀬舟とは森鷗外の書いた高瀬舟に疑問を持ったある調査官達の物語である。森鷗外の小説では真じめな二人の兄弟がいて、…弟は病気をしている。…その弟が兄に世話になりっぱなしを苦にしてカミソリをノドにさすが自分の力で抜けないばかりに苦しんでいる。そこへ兄が帰ってきてカミソリを抜いてやる。弟は死ぬ。そのため兄は役人に捕えられ島送りになる。以上であるが、新説高瀬舟はこれを逆に考えたもの。弟が病気して兄が働いているので貧乏ぐらしをしている。食べる物もろくにない。だが弟は自分だけ病気になり兄が丈夫で働けるのは自分にかくして兄だけがなにか食べていると思い、血迷った弟が兄を殺そうとするだがかくとしているうちに兄があやまって弟を殺してしまう。以上であるが事実を明確にするために兄弟の隣りに住んでいたじいさんの子孫と思われる人を呼んで話を聞いてこの研究成果の発表である。

しかし毎年同じ様な展示内容であるといわれている。

そこで来年の参考のため新鮮のある例を十二、三あげてみた。

近代文学史に現われた詩歌、小説、戯曲、随筆等の作品を展示したり、郷土出身の作家の書いた小説、詩歌、短歌、俳句等の原稿、単行本、雑誌類を用いて説明したりするのも、古書を多く用いるため多くの人々の興味をひくと思われる。

また〃岩手県文壇地図作成〃（県内にある文壇名とその所在地、出版本を展示などもおもしろいのではなかろうか。

そのほか、小説、俳句、紀行文、随筆、詩歌の中に描かれている郷土、（岩手県）を写真や小説を出して説明したり、近代文学史に現われた諸雑誌（「国民の友」「文学界」「明星」「しかぐみ草紙」）を展示したりするのも多くの人々の興味を引くことであろう。

また郷土出身作家（夏村、落花、砕花、啄木、賢治等）の出版物や手紙の展示や特定の（個人）写真、原稿手紙等を展示するのもいいだろう。

また、郷土と関係の或る結社、並に倶楽部等の作者原稿、出版本の展示、またこれと関連づけて詩歌、俳碑、歌碑の写真展示のほか文による「表現」等に関する展示、これと共に文集や会誌を全国各県から集めてみるのもいい。

その他、中央文壇、詩壇俳壇の有名な作者、原稿等や機関誌の展示や、戦後文学史を集めて展示するのもおもしろいと思う。

言までのでたことが来年の参考になる事を願いたい。

×××　×××

文化祭に思うこと

さて、今年も文化祭がやってきた。今年一年間の研

（論説）

とうとう文化祭が来てしまった。僕も生徒会役員の一人としてそれらしい案を立ていろいろ検討してみたのであったが、結局は去年と何ら変るところのない文化祭になってしまった。それの良し悪しは別として、とにかく今年も文化祭が開けるということに限りない喜びをおぼえる。

今の日本における私達高校生はある一部の人々から言わせれば、文化祭、運動会などで高校生活を無駄に過ごす余裕はない状態であるという。何程それはもっともだ。確かに毎年のごとく文化祭の中心もなく活動する人々はその殆んど高校二年生である。歌謡曲に歌われるところの高校三年生は修学旅行のような上から当られるものには喜々として参加するが、文化祭などのように自分達が創造して行くものにはその楽しさは充分知っていても参加しようとはしない。いや出来ないのである。

何程確かに余裕のない状態なのである。その原因は今さら言うまでもない。

我校において修学旅行は一年生から二年生に進級すると春休みに行われる。今年は運動会と文化祭が一ヶ月間をおかないで行われた社会に対する装飾品としてもかかわらず、運動会で扱われているということである。（立派な学歴という言葉は、その最も効果的なアクセサリーである。）しかし今日は文化祭についての感想を述べるのであるかこれらこのような話は遠慮するべきだと思われる。

ここにまず、一つの大きな問題がある。それは分かりきっていることではあるが、我ら現在の高校生の学業が決してその本来的である自己の精神的完成を目ざすものではなく、世間から改めて年に数回の学校の結果から、大学入学の適不適を問うものであるという。文部省はそうすることによって高校生一人一人の真の学力を知り、現在の入試地獄の解消に努めるというが果してそうなってくれるだろうか。僕にはむしろその逆の結果が生まれるのではないかと思われてならない。つまり、生徒のふだんの学力を知るべき目的でテストの回数を多くして、それで自分の将来が決定されるのであれば誰が落ちついていることが出来るだろうか。その結果は端明にいうならば、入試の回数が数倍になることであり、又一年中を入試に臨む対勢で送ることになるのではないだろうか。しかもそれが我々高校生の生活を灰色と呼ばせるものに追いやり、文化祭やひいては部活動までも満足に出来なくするならば、我々はそれを断固として拒否しなければならないのではないか。

いろいろの人々が、能研テストの良し悪しを論じているが、それと文化祭とは関係ない。ただ僕が考えざるを得ないことは現在の入試制度にしろ又文部省の実施しようとしていることにしろ、それが我々高校生の生活を灰色と呼ばせるものに追いやり、文化祭やひいては部活動までも満足に出来なくするならば、我々はそれを断固として拒否しなければならないのではないだろう。

また、郷土と関係の或る結社、並に倶楽部等の作者原稿、出版本の展示、またこれと関連づけて詩歌、俳碑、歌碑の写真展示のほか文による「表現」等に関する展示、これと共に文集や会誌を全国各県から集めてみるのもいい。

その他、中央文壇、詩壇俳壇の有名な作者、原稿等や機関誌の展示や、戦後文学史を集めて展示するのもおもしろいと思う。

言までのでたことが来年の参考になる事を願いたい。

×××　×××

今年、来年当りまで年に一回その様子を見る為に行われる「能力研究所テスト」も今年はそれほどの盛り上りを示さないが、来年は多くの高校生が真剣に取り組むであろう。そんな中で文化祭を行うことは大分難かしくなるだろうこと、我々は又一年生や中学の諸君は良く自覚しなければならない。

今年の文化祭を迎えるに当り、考えてみなければならない大きな問題であると思う。

（午崎一行）

高一新聞部員募集！

日程表

9	弁論	（9：00～　）
	ブラスバンド演奉	（13：00～　）
	展示会	（9：00～16：00）
	食堂	（10：00～15：30）
10	演劇・音楽	（9～12）
	〃	（13：00～15：00）
	食堂	（9：30～15：00）

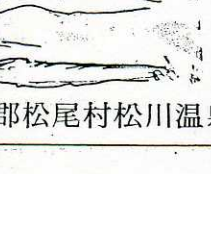
石割桜

本校の文化祭も何回目かを迎えたわけである。この頃はどの学校でも文化祭とかバザー、学園祭を行なうようになって見に来る人の目もこえてきたようである。▼〃お金をかけすぎていてもったいない〃とか〃深さが足りない〃とか批判がたえない。まったくその通りである。文化祭の三日位前から、あわをくって模造紙にマジックインキでなにやらナグリつけている▼これもみんなで一緒にやればいいのにほんの少数で、あとの数人はそこいらでピンポン等をして遊んでいる。まったく驚いたものである▼某奴、曰く〃おらあ関係ね！〃いやはや驚き桃の木、サンショの木である▼まったく文化祭で毎年よくあることだが、電柱にとまったセミのように全く他の部の影にうすれ、遠慮している部がある。これはまあ今年はしかたがないとして来年からは電柱に登ったゴリラみたいにガンバレ……▼またこれも毎年のことであるが役を二つも三つも（欲張ったのかどうかは知らないが）持っていて、あっちこっち走りまわっている者もいる▼これでは充分な説明ができるわけがない▲また役も持たずにノホホーンとしてぶらぶらぶらという奴もいる。文化祭という行事にも（？）積極的であってほしいものだ▼また文化祭というものはどういうものであるかをほんとうにわかっている者は少ないようである▼ある者はショーであると言い、ある奴はクラブ活動によって得た成果の発表であってショーではないと言う▼まあこれは高校生諸君の良識の判断にまかせよう▼いろいろ自分でもわからぬことを書いたがボロを出さないような文化祭をやってもらいたい。

◇◇◇

四季を通じて楽しめる……

天然の岩風呂



松川温泉

松楓荘

連絡は岩手郡松尾村松川温泉松楓荘　TEL松尾鉱山電話で呼び出し　（随時車が迎えにまいります）

文化祭をみる

多彩な展示内容
前回よりも華やかに

化学　将来に貢献する　今年も好評？

例年の事であるが、本校文化祭において、化学部の研究は好評である。今年もまた昨年同様好評を博することであろう。

今年は将来に貢献する化学を親しみまた愛してもらおうというのが願いらしい主な展示内容と概要

「植物の色素」
植物体内の色素の反応
①カロチノイドの反応
②カロチノイドの溶出
③クロロフィルとカロチノイドを分離する。
④フラボンの反応
⑤アントチアンの性質
⑥ニンジンからカロチンを取る。

尿素樹脂
近年盛になった合成樹脂工業のうちホルマリンと尿素とによって合成する尿素樹脂の実験発表
○尿素とホルマリンの反応
○尿素樹脂をつくる
○尿素接着剤をつくる

螢光体
現在螢光灯やテレビ受像管に切り離せない螢光体の実験発表
○フルオレセインの合成
○エオシンの合成
○螢光染色

ケミカルガーデン
ケミカルガーデンと名のごとく春の花壇をおもわせるものだが、これはケイ酸ナトリウム溶液中にいろいろの金属塩結晶を沈めて、その生長ぶりを観察する。今回は金属塩の結晶を投入して後の時間と生長の度合を発表する。

五、金属のイオン化傾向
イオン化傾向の小さい金属イオンを含む溶液にそれより イオン傾向の大きい金属を入れるとイオン化傾向の大きい方の金属がイオンとなって溶けイオン化の小さい金属が折出してくる。この差を実験によって確かめ又それを利用して晶出する美しい金属の結晶をつくって見る。
1、銅と鉄のイオン化傾向の大小を示す実験
2、銀と銅のイオン化傾向の大小を示す実験
3、鉛と亜鉛のイオン化傾向の大小を示す実験

絵画

今年、高一中三等の入部者が多数いた絵画であるが例年と作品数はほぼ同数で油絵七十点、水彩画二十余点、其の他作年同様、石膏デッサン十余点、初の試みとして部員合同の作品であるオブジ等も展示する。

書道

書道部は例年通り、本校生徒の作品を展示。
第一教室では、中学、高校の生徒が書道の時間、清書したものの中で優秀と思われる作品を、条幅、半紙色紙、短冊にわたって展示し、第二教室では書道部員高、八幡平、岩手山を結ぶコースの所要時間及び距離を表によって説明。

山岳

山岳は例年より消極的になった。しかし岩高山岳部名物のつり橋、ケルンは昨年より趣をこらしている。
主な展示は例年通り、室内にテントを張り、山岳用具の展示と説明、山岳写真、その他、各温泉地の標本の展示。
○〃三重苦の獣人　下山清
この獣人は、朝日新聞などで取り上げ埋もれた岩手の獣人として紹介された。
○〃石川啄木の歌碑の写真等による紹介〃
これによって郷土の偉人の歌を味わってもらう。

図書　充実した内容

図書委員会は今年、本校文化祭において最も充実した内容を持っている様に思われる。
県内学校図書紹介
三重苦の獣人下山清、石川啄木歌碑紹介などを展示する。
主な展示内容とその概要
○〃県内図書館紹介〃
これは県内の中、高等学校の図書館の規模、組織などを各校にアンケートを配り調査したものこれにより多くの人々に県内の図書のあり方を認識してもらう。又それを比較して、その学校の歴史の深浅などがわかり大いに興味がもてる。

写真　二教室を使って　ファイト満々

毎年好評の写真部であるが、それにも増して今年は二教室を使って好評を博そうとしている。またこのためかいろいろと趣向をこらしている点があることを見逃せない。
主な展示内容とその概要
○例年通り暗室を作り
〃暗室作業の公開〃
○表や実験によって
〃写真の出来る迄〃
○一時間の
〃スピード写真〃
○今年から新しく始めた
〃写真化学〃
○これも始めての
〃八ミリの手引〃
○映写室を作っての
〃八ミリ映画の映写〃
等を行うが部員不足といえなかなかどうして、二教室を使おうというファイトはたいしたものである。

PFC　おもしろい　方言調査

今年で十一年目を迎えたPFCも昨年は、最高の名誉である全国表彰などいろいろ光る点があったが、今年はそのせいかあまり目立つ展示内容はないが、しかし部員がいつしようけんめいガンバッただけあっておもしろい展示内容である。
○方言調査（集団活動部）
○点字交通（集団活動部）
○杜陵学園との親善野球
これは岩高PFCの三大目標の成果の結果を発表する。
○個人交通の内容
○世界、日本の切手
○その他PFCの関係事項
その他に交通に関する相談にも応ずる事になっている。

◇　◇　◇

物理・地学

物理

毎年文化祭で、一番人気のある物理部は、今年、部員不足のためか展示物が少ない様である。
今年の特徴は放射線という一つの事にいろいろと関連づけて研究している点であろう。また各学年によって研究内容が違うことも見逃せない。
主な展示内容
○ガイガー計数器
○主にラジオを主体とした真空管
○電離作用を利用したらウイルソンの霧箱
○スペクトル（光の分析）
○クラドニ
○電気オルガン
○放電
○発電所、トランス等の電磁誘導
○例年通りSWLカードの展示
また例年の様に、ラジオ、テレビに関しての質問にも応じることになっている。

地学

地学部は現在、地球物理岩石、鉱物、地形、地質、天文と分かれているが今年はこれらが一つとなって発表する。展示内容は、今年中学の部員が多数を締る所から中学生と主体としたものであるが、それでも中学生の発表としては高等なほうであろう。
主な展示内容
○プレパラート
○岩石の出来るまで
○○太陽
○　太陽系

体育・音楽・生物・生活　消極的になった

体育

体育各部の今年の活躍状況を表や統計によって紹介するほか、例年通り、各部のユニホームの展示、優勝旗、賞状などの展示、校内の体力の測定統計や希望者には握力、背筋力、肺活量身長、座高、体重なども測定する。

音楽

音楽部は例年通り、レコードコンサート、構堂で行うブラスバンド、独唱、男性四重唱などを行う。
○　ブラスバンド
○　旧友
○　ラベンダー
○　ハンガリア（5）
○　国民
○　忠誠
○　若い二人
○　ガラスのジョニー
○　軍艦マーチ
○　君が代マーチ
○　独唱
○　男性四重唱
レコードコンサートの方はクラシックからジャズまで音楽教室を使っておこなう。

生物

昨年、〃早地峯山の蘚類層の研究〃の展示が大々的だったためか今年はあまり見え栄えがしない様である。
主な展示内容
○北上川とその支流の魚類の研究
○植物、動物のスライド映写

生活委員会

昨年始めて参加した生活委員会は、なにかと目立たなかったが、今年はその面目を一掃せんものと張切っている。
主な展示内容は次の通り
○「昭和三十七年度、及び昭和三十八年度上半期の防犯調査」
○「交通に対する諸問題」

語版　国出　期待されるテレビによる新聞への影響

国語出版は今年、いっそうおもしろくなった。特に期待されるのはアンケートによって統計をとった〃テレビによる新聞への影響〃で、テレビを見る事によって新聞を読む時間が前と同じか、それとも以前より減ったか、以前よりも多くなったかをグラフであらわしたもの。
主な展示内容
○〃石桜新聞の出来るまで〃（これは昨年と同様に凸版等も展示し、新聞の出来るまでの過程を写真や実物を作って説明する）
○〃会誌石桜の展示〃（創刊号から現号までを展示
○〃石桜新聞の展示〃（創刊号）
○〃テレビによる新聞への影響〃（アンケートによるもの）

映画

去年、今年と映画部は従来に比べて長足の進歩を来たした。
○昨年より始めた全校生徒の映画アンケートの掲示
○今年の四月から行っている推選割引映画の一覧
○リクエストによるレコード音楽の放送
○最近発足する「自主上映の会」の紹介
等々盛り沢山の展示を用意している。
「映画部の抱負」をお読み下されば分かるであろうが我々は従来の同好会的クラブより脱皮し、娯楽と思われがちな映画（芸術）が真に理解されることを願ってその啓蒙に努めるものである。
なお、御希望の方にお茶を差し上げております。（無料）お疲れの方は、どうぞお休み下さい。

編集後記

文化祭の一週間前になって

この新聞を作ることになりあわてて編集したわけです。そのため記事がとりなく我々部員一同苦戦した末がこの様な状態です。しかし（いつものことながら）次号からは期待にそえる様な新聞を作ることを誓います。最後にこの新聞を編集するにあたって御協力下さった方々に感謝します。

熱砂の謀略と戦斗に生涯を賭けた
風雲児の波乱の物語
アラビアのロレンス
大型総天然色
アカデミー一賞7部門独占！道真に貫く堂々4時間！
絶賛上映中　高校生　200円
中劇

純愛コンビ吉永・浜田が涙と感動で大宰文学に取組む大ロマン！
真白き富士の嶺
芸術祭参加作品
大宰治原作「葉桜と魔笛より」
吉永小百合・芦川いづみ
浜田　光夫・宮口　精二
同時上映
その人は遠く
芦川いづみ
和泉　雅子
山内　賢
★暖房完備　★16日公開　盛岡日活